

令和8年度 学校経営の方針

松阪市立豊田小学校

I 現状と課題

- 豊田の人々は郷土に深い愛着を持ち、住民自治協議会を中心に、夏祭り、文化祭等の行事を通して、子どもたちを育み豊田の文化を伝えてくれている。教育への関心も高く、学校教育活動に対して快く支援していただける地域である。
- 子どもたちは素直で明るく、目標に向かって真面目に取り組んだり、自分たちで考え行動したりする力が育っている。しかし、自分の意見や考えをわかりやすく伝えることや、コミュニケーションを図ったりすることに課題がある。地域学習を通じた探究的な学習の実践を重ねながら、「持続可能な社会の創り手」としての資質・能力の育成に努めていく。

II 学校 教育目標

めあてをもって生き生きと活動し、かがやく子どもの育成
～認め合い 伝え合い 社会の中でより良く生きていこうとする子どもの育成～

めざす学校像

- 子どもや教職員が主体的・対話的で深い学びの実装をめざし、主体的に表現し合える学校
- 子どもの多様性を包摂し、安全で安心できる居場所となる学校
- 家庭・地域と連携し、深いつながりの中で豊かな学びが展開される学校

めざす児童像

- 進んで学ぶ子**【自ら学び、自ら考え、よりよい方法を創造し、実行する力を育てる】
 - ・人の話をしっかり聴き、自ら考え、伝え合う子
 - ・資質・能力を身につけ、思考、判断、表現できる子
- 思いやりのある子**【人権意識を持ち、お互いの考えを尊重し行動する態度を育てる】
 - ・相手のことを想った言動ができる子
 - ・励まし合い、助け合い、ともによりよく生きようとする子
 - ・地域の良さを理解し、地域を愛し、地域に愛される子
- 強い心と体をつくる子**【健康で安全な生活態度や最後までやり抜く意欲を育てる】
 - ・自分から進んで、元気な挨拶や返事をする子
 - ・課題解決を目指し、あきらめずにねばり強く取り組む子

めざす職員像

- つけたい力を明確にし、個に応じた指導・支援が行える教職員
- 互いの主体性を尊重し支え合える教職員
- 主体的に学び続け向上心を持つ教職員
- 家庭・地域との連携を深め、信頼される教職員
- やりがい大切に、仕事の効率化を図り、勤務時間の削減に取り組む教職員

III 重点目標

- (1) 豊かな心の育成と確かな学力の向上・探究的な学びの推進
- (2) 子どもが安心して生活することができる学校教育環境の充実
- (3) 家庭・地域との連携を深め、信頼される開かれた学校づくり

IV 具体的な取組と目標

(1)豊かな心・確かな学力・探究

- ①生きて働く「確かな知識」の習得と探究的な学び、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る
- ②ICT 機器を活用し、情報活用能力の向上と、自律的な家庭学習改善による学力向上
- ③コミュニケーション能力の向上を基にした仲間づくりの充実
- ④「5つのチャレンジ」の取組による自己調整の習慣と読書習慣の向上

(2)学校教育環境の充実

- ①安心して生活・学習ができる環境(居場所)づくり
- ②主体的・対話的で深い学びの実装を通し、共に考え、より良い集団生活を築こうとする学級づくりの実践
- ③生活科、総合的な学習の時間における探究的な学びの充実と、人権教育・考え、議論する道徳教育の徹底

(3)信頼される学校づくり

- ①情報発信を活用した学校教育活動の見える化
- ②地域人材の活用を基盤とした学校教育活動の展開(コミュニティ・スクール)

(4)教職員のメンタルヘルスを含めた総勤務時間縮減に向けた取組

- ・綱紀粛正、服務規律遵守

◎重点目標の具体的な内容

(1) 豊かな心・確かな学力・探究

- ① 生きて働く「確かな知識」の習得と探究的な学び・個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る
 - ・各教科において、自らの課題を設定し、協働的な学びによって個の思考を深め、納得解を形成する力を養う
 - ・子どもが「自分で考え、つなげ、説明できるようになる学び」を、授業の中で実際に起こるように工夫する。
- ② ICT機器を活用し、情報活用能力の向上と、個別最適な学びによる学力向上を図る
 - ・多様な子どもたちを包摂する学びや、自律的な家庭学習や自主学習の充実を図れるような手立てを工夫する。
 - ・情報活用能力の向上を図るとともに、デジタルドリルのより良い活用法を考察し、確かな知識の定着を図る。
- ③ コミュニケーション能力の向上による仲間づくりの充実と読書習慣の向上
 - ・探究的な学びの時間など、対話によって相手への理解を深め、自分の意見を表現する活動の充実を図る。
 - ・学校での読書活動の推進だけでなく、家庭読書の定着を図る
- ④ 「5つのチャレンジ」の取組
 - ・「宣長さんの教え」、「5つのチャレンジ」への取組を推進する。
 - ・SNSや動画視聴、ネットゲーム、スマホ使用方法について、自分の現在の生活を俯瞰し、自己調整できる力を養う。

(2) 学校教育環境の充実

- ① 安心して生活・学習ができる環境(居場所)づくり
 - ・自己肯定感を高めるためのカウンセリングマインドに基づいた傾聴と価値付けの実践
 - ・自他の良さを認め合う関係づくり・仲間づくり
- ② 主体的・対話的で深い学びの実装を通し、共に考え、より良い集団生活を築こうとする学級づくりの実践
 - ・ソーシャルスキルトレーニングによる人と関わり、価値語の植林など、互いを認め合い、つながる力の育成
 - ・縦割り班活動を中心とした、思いやり意識、それぞれの立場における自覚と参画意識の育成
- ③ 体験活動を中心とした生活科、総合的な学習の時間や、人権・道徳教育の推進
 - ・地域学習における探求的な学びを通して、将来、社会に貢献できる力・人の育成を図る。

(3) 信頼される学校づくり

- ① 情報発信を活用した学校教育活動の見える化
 - ・学校だよりやホームページによる情報発信や学校評価の実施と結果の公表
 - ・学校行事や年3回の授業参観等による学校教育活動の公開
- ② 地域人材の活用を基盤とした学校教育活動の展開（コミュニティ・スクール）
 - ・保護者、学校運営協議会、豊田住民自治協議会、まちづくり協議会等との連携・協働
 - ・中学校区の学校・園との連携（学力向上・研修内容の共有・めざす子どもの姿等）
 - ・保護者や地域の方々の学習活動への参加・支援を進める。

(4) 教職員のメンタルヘルスを含めた総勤務時間縮減に向けた取組

- ① 1人当たりの時間外労働：月平均 18.0 時間以下を目指す。
 - ・年 360 時間を超える教職員 0 人、月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人に努める。
 - ・管理職による声かけや中堅職員が率先して早期帰宅を心掛けるよう指示する。
 - ・ICTの利活用も図りながら、業務の精選を行う。
- ② 年間休暇取得：1人当たりの年間休暇取得日数 21.7 日以上を目指す。
 - ・年間休暇を取りやすい雰囲気醸成する。カリキュラムの工夫などで取得を促進する。
- ③ 定時退校日の設定：月 2 回設定し、定時退校教職員の割合 80%を目指す。
- ④ 会議時間の短縮：放課後開催される会議で、60 分以内終了の会議を 80%以上にする
- ⑤ コンプライアンスミーティングを年 2 回実施し、服務規律の確保について随時発信する。